

エコアクション21 環境活動レポート

2016 年度

2015 年 11 月～2016 年 10 月



限りある資源を未来に 地球環境に貢献

株式会社コーセイジャパン

E-MAIL: info@kosei-japan.com

URL: <http://www.kosei-japan.com/>

2017 年 1 月 31 日 作成

環境方針

基本方針

株式会社コーセイジャパンは、電気工事業ならびに省電力商品の販売を通じて環境負荷の軽減に取り組み、低炭素社会の実現に貢献できるよう努力してまいります。

行動指針

- (1) 照明分野における省エネ知識を生かし、顧客への照明省エネ診断を積極的に行う。
- (2) 省電力商品（LED照明、高効率照明用安定器）の販売促進により環境負荷軽減に取り組む。
- (3) 環境負荷軽減商品（LED照明など）の企画・設計を積極的に行う。
- (4) 社内におけるゴミの分別の徹底、エネルギー使用量（電気・ガス・水道・ガソリン等）の抑制を行う。
- (5) 事務用品・工事材料等のグリーン購入を積極的に行う。
- (6) 環境関連法規等を遵守します。

2013年2月15日（改定）

株式会社コーセイジャパン

代表取締役 安陵範浩

1. 事業の概要

事業所名 株式会社コーセイジャパン

代表者名 安陵 範浩

所在地 本社 福岡県京都郡苅田町港町 8-11

環境管理責任者 安陵 範浩

連絡担当者名 安陵 範浩

連絡先 TEL : 093-436-6136

FAX : 093-436-6141

E-MAIL n.yasuoka@kosei-japan.com

事業の内容 LED照明並びに高効率電子安定器の設計、製造、販売、施工

事業の規模

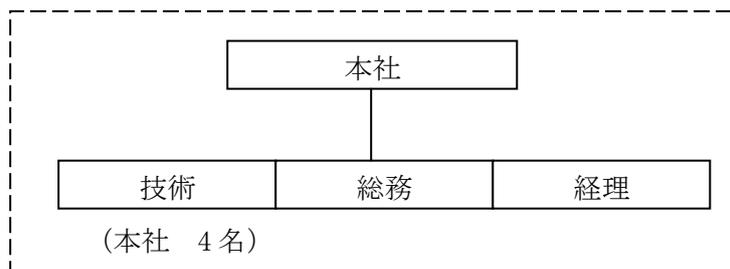
	単位	2014年度	2015年度	2016年度
売上高	百万円	84	78	79
従業員数	人	4	5	5
事業所面積	m ²	80	80	215

当社の事業年度 11月1日～翌年10月31日

(今回の活動レポートの対象期間は、2015年11月1日～2016年10月30日)

2. 組織図及び認証・登録範囲

本社および全事業活動



範囲外

東京営業所

※2015年6月開設

(営業所 1名)

※2020年に活動予定

3. 2016 年度、中期環境目標

2016 年度および中期環境目標

環境目標		単位	2009/11～ 2010/10	2015/11～ 2016/10	2016/11～ 2017/10	2017/11～ 2018/10	2018/11～ 2019/10
			2010 年度 (基準)	2016 年度 目標	2017 年度 目標	2018 年度 目標	2019 年度 目標
基準データ	従業員数	人	4	5	5	6	6
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO2/ 人	3,558	3100 (13%)	3050 (14%)	3024 (15%)	2994 (16%)
	1-1 電力使用量	kWh/人	1,580	1,376 (13%)	1,360 (14%)	1,343 (15%)	1,330 (16%)
	1-2 ガソリン使用量	ℓ/人	1,268	1,104 (13%)	1,090 (14%)	1,078 (15%)	1,067 (16%)
	1-3 プロパンガス使用量	m ³ /人	10.82	9.42 (13%)	0 (100%)	0 (100%)	0 (100%)
2-1	一般廃棄物総排出量	Kg/人	70.65 2012 年度 (基準)	63.58 (10%)	63.00 (11%)	62.20 (12%)	61.50 (13%)
2-2	廃棄物のリサイクル率	%	70.5% 2012 年度 (基準)	77.5% -(10%)	78.0% -(11%)	79.0% -(12%)	80.0% -(13%)
3	総排水量 (給水量)	m ³ /人	19.75	17.0 (14%)	16.8 (15%)	16.6 (16%)	16.4 (17%)
4	グリーン購入の推進	品目	-	5品目	6品目	7品目	8品目
5	環境負荷軽減商品の販売による CO2 削減	t-co2	555	694	722	749	777
		達成率	100%	125%	130%	135%	140%

※電気の二酸化炭素係数は九州電力の 21 年度 0.369kg-CO2 を用いた。

※環境負荷軽減商品の販売で高効率電子安定器は、LED 商品の販売増加に伴い減少傾向にあるため、下方修正した。

4. 2016年度の環境活動計画

4-1. 二酸化炭素総排出量の13%削減

取組目標		活動項目		実施状況
1	電力使用量の13%削減	1	待機電力削減（OA機器、測定器類、家電品等）	○
		2	全照明器具にブルスイッチを設け、こまめに消灯する	○
		3	クールビズ、ウォームビズ実施で空調電力の低減	○
		4	全照明を最新のLED照明導入（移転に伴い実施）	○
2	ガソリン使用量の13%削減	1	エコドライブおよび公共交通機関の利用促進	○
		2	営業車にハイブリッドカーを購入	○
		3	納品及び工事車両に軽貨物車を導入	○
3	プロパンガス使用量の13%低減	1	給湯器等の効率使用（ポットの活用）	○
		2	ガス使用を廃止、電気調理器の採用（移転に伴い実施）	○

4-2. 廃棄物排出量の削減（10%）

取組目標		活動項目		実施状況
1	廃棄物排出量の削減	1	梱包材のリサイクル化向上	△
		2	再生紙および裏紙の使用	○
2	廃棄物リサイクル率の向上	1	分別の徹底、産業廃棄物のリサイクル促進	○
		2	中古蛍光灯ランプのリサイクル（無償譲渡）	○

4-3. 総排水量の削減（13%）

取組目標		活動項目		実施状況
1	節水活動	1	節水活動の促進	○
		2	雨水貯水槽の製作	○

4-4. グリーン購入の促進

取組目標		活動項目		実施状況
1	グリーン購入の向上	1	再生紙の使用促進（コピー用紙、封筒）	○
		2	清掃用洗剤をエコ洗剤使用（SAVE 九洗）	○
		3	名刺の再生紙使用	○
		4	鉛フリー電線の購入	○
		5	社用車用のタイヤにG法適合のエコタイヤを購入	○
		6	本社の照明全て、LED照明を導入	○

4-5. 環境負荷軽減商品の販売促進

取組目標		活動項目		実施状況
1	LED照明の販売台数向上	1	省エネ診断の実施	○
		2	展示会の積極的な出展や顧客訪問回数を増やす	○
		3	新製品の企画・設計（LED照明新機種開発）	○

4-6. 化学物質使用量の低減

取組目標		活動項目		実施状況
1	化学物質の使用実態を調査し、削減目標を作成する。	1	電気工事で使用する建設資材を調査する。	○
		2	建設資材のMSDSを取り寄せ管理する。	△

5. 目標の実績

・2016年度の目標における実績は以下の通りであった。

環境目標		単位	2009/11～ 2010/10/1 2010年 (基準)	2015/11～ 2016/10/1 2016年度 目標	2014/11～ 2015/10/1 2016年度 実績	目標の 達成
基準データ	従業員数	人	4	5	4(本社)	
二酸化炭素排出量の削減(総排出量)						
1	二酸化炭素排出量の削減	Kg-co2/ 人	3558	3100 13%	1558 56%	○
	電気の使用量削減	Kwh/人	1580	1376 13%	1019.3 35%	○
	ガソリンの使用量削減	ℓ/人	1268	1104 13%	502.8 60%	○
	ガスの使用量削減	Kg/人	10.82	9.42 13%	4.86 55%	○
2-1	一般廃棄物の排出量削減	Kg/ 人	70.65	63.58 10%	305.35 -332%	×
2-2	産業廃棄物のリサイクル率	%	70.50%	77.50% -10%	86% -22%	○
3	総排水量(給水量)	m ³ /人	19.75	17.0 14%	16 19%	○
4	グリーン購入の推進	品目		5品目	5品目	○
5	環境負荷軽減商品の販売によるCO2削減	t-co2 達成率	555 100%	694 125%	773 139%	○
6	化学物質の使用量低減	Kg/人	-	-	0.2	-

※電気の二酸化炭素係数は九電の21年度0.369を用いた。

※化学物質の使用量削減はこれまで記録がないので2014/4～2015/10の期間を基準に設けて目標を設定する。

6. 活動計画の取組結果

6-1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

- ・削減目標を 13%としたがこれを達成できた。(56%削減)
前回と同様、待機電力の削減や不要な照明の消灯、エアコンの温度設定管理により、電力消費量を抑えることができた。

(2) ガソリンの使用量削減

- ・削減目標を 13%としたがこれを達成できた。(60%削減)
前年同様、遠方への長距離運転の回数が減ったのが原因と考える。

(3) ガスの使用量削減

- ・削減目標を 13%としたが、これを達成できた。(55%削減)
前年同様、湯沸し頻度を抑え、ガス使用量の抑制に取り組んだ。
また期間中に本社移転し、新事業所ではガス使用を廃止し、電気ポットのみとなったので、来年度より使用量ゼロとなる。

6-2. 廃棄物の排出量削減、

(1) 一般廃棄物の排出量削減

- ・削減目標を 10%としたが、達成できなかった。(332%増加)
本社移転に伴い、不要な備品の処分により大量のごみが発生したのが要因である。

(2) 産業廃棄物のリサイクル率向上

- ・リサイクル率 10%アップとしたが、これを達成できた。

6-3. 排出水量の削減

- ・削減目標を 14%としたがこれを達成できた。(19%削減)
前回同様、節水への取り組みを強化したためである。
また本社移転後に雨水タンクを導入したことも要因である。

6-4. グリーン化商品の購入促進

- (1) 再生紙品購入を実施（コピー用紙、封筒、名刺など）
- (2) リサイクルトナーの購入
- (3) 清掃用洗剤に SAVE 九洗（天然植物性の脂肪酸物質に、苛性ソーダ等複数の助剤を配合し、石油系界面活性剤を一切使用せず、排水後 3～28 日で自然分解する洗剤）を購入。
- (4) 鉛フリーの電線を購入。

(5) 社用車のタイヤを低燃費用エコタイヤ購入。

(6) 新社屋の照明全て、LED 照明器具を採用。

6-5. 環境負荷軽減商品の販売

(1) 高効率電子安定器・LED 照明の販売

目標を販売数量から、販売したエコ商品による CO2 削減予測に置き換えたところ、削減量が多い、高天井用 LED の販売が伸びたので、目標を達成できた。

(2) 省エネ診断の実施

・顧客への照明設備の調査を実施、LED 照明への交換による省エネ効果を診断する業務を積極的に実施。

(3) 展示会の出展

・展示会への自社商品（省エネ照明）の出展回数を増やし、PR 活動を実施。

（2016 年 3 月、2016 年 10 月に 2 回の計 3 回出展）

(4) 省エネ補助金を活用した LED 照明の導入促進

・エネルギー使用合理化補助金を活用した LED 照明の導入（1 件）

・省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金を活用した LED 照明の導入（1 件）

7. 次年度の活動計画の内容

7-1. 二酸化炭素の排出量削減

ガソリン使用量の低減が大きく効果が出ており、二酸化炭素排出量が大幅に低減した。

次年度もこの調子で低減に取り組んでいく。

7-2. 産業廃棄物の削減

一般廃棄物は引き続き、分別の徹底を行い削減していく。

建設にともなう廃棄物のリサイクルは、今回試みた中古ランプの無償譲渡を続け、使用できるものは廃棄せず、寿命まで使って頂くことを進める。

7-3. グリーン購入の推進

社内でのグリーン購入は進んでおり、現在までに 6 品目が進んでいる。

建設資材などでグリーン購入の採用を推進する。

7-4. 環境負荷軽減商品の販売促進

水銀に伴う水俣条約により、水銀灯が 2020 年までに生産終了となるので、高天井用 LED 販売の増加が見込まれる。

よって水銀灯からの LED 照明の置き換えを積極的に提案していく。

7-5. 化学物質の使用量低減

PRTR 法を参考に、実態を調査したが、現時点では該当しない。

引き続き使用材料等の MSDS をチェックしていく。

8. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

環境関連法の遵守状況をチェックの結果、違反はありませんでした。

尚、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去 19 年間ありません。

9. 代表者による全体評価の見直しの結果

〔評価〕

環境経営システムが有効に機能しているか	順調に進んでいる。
環境への取組は適切に実施されているか	二酸化炭素排出量の削減は達成できた。 一般廃棄物の排出量が本社移転で増えたが、一時的な事象なので、次期は排出量の低減が見込まれる。

〔見直し〕

環境方針 変更の必要性	なし
環境目標 変更の必要性	販売計画の見直し実施 (別紙1)
環境活動計画 変更の必要性	なし
環境経営システム等 変更の必要性	なし

〔総評〕

<p>二酸化炭素の低減は達成できた。</p> <p>環境負荷軽減商品の販売は中々伸び悩んでいたため、販売品による省エネ効果からCO2低減量の予想を立てて、それに対する目標に変更した。</p> <p>今期を継続的に省エネ効果の大きい製品の開発並びに販売を強化していく。</p>

2017年1月6日

株式会社コーセイジャパン

代表取締役 安陵 範浩

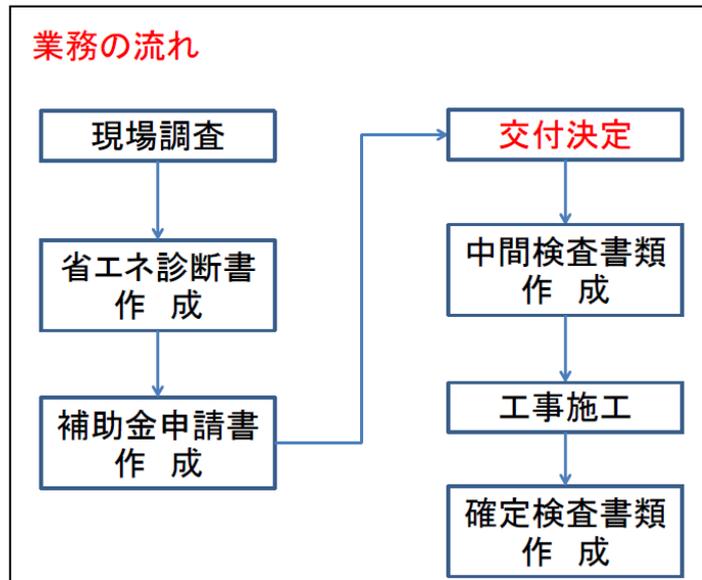
10. その他

(1) 新商品の企画開発

<p>高演色 LED ランプ</p>  <p>Ra96</p> <p>新開発の超高演色白色 LED は、青色 LED チップに、黄色、赤、緑 の蛍光体を独自の調合を行うことで、平均演色評価数を 96 以上に高めました。</p>	<p>イエローLED ランプ</p>  <p>白色 LED に黄色樹脂を混合させた PC カバーを用いることで、500nm 以下の波長を効率的にカットしました。</p>
<p><主な用途></p> <p>美術館、ショールーム 印刷工場・塗装工場（色校正）</p>	<p><主な用途></p> <p>食品工場（防虫用） 半導体工場など</p>
<p>食品工場の出荷場にイエローLED を導入</p>  <p><省エネ効果></p> <p>既存 (40W) → LED 交換後 (16W) = 24W 削減! 60%省エネ!!</p> <p>点灯時間 12h×340日 = 4080h/年</p> <p>0.024kw×4080h×18円/kwh = 年間1760円の電気代節約!</p>	

(2) エネルギー使用合理化補助金を活用し LED 照明導入

金属加工会社様（福岡県）	
照明使用状況	
蛍光灯40W … 1137本	
水銀灯400W … 21台	
照明の電力消費量	
127,529kwh(年間)	
全電力の照明比率	照明の電力を、 65% 省エネ
12.8%	工場全電力から、 8.5% の省エネ



施工の写真

着工前写真の撮影	工事中写真の撮影	完了写真の撮影
		
		

(3) 新社屋の省エネ

社屋の照明を全て LED 化



<省エネ試算>

従来照明 (40W) → LED 照明 (16W) 24W 削減

雨水タンクの導入



(4) 環境負荷軽減商品の販売に伴う、二酸化炭素低減量

販売数

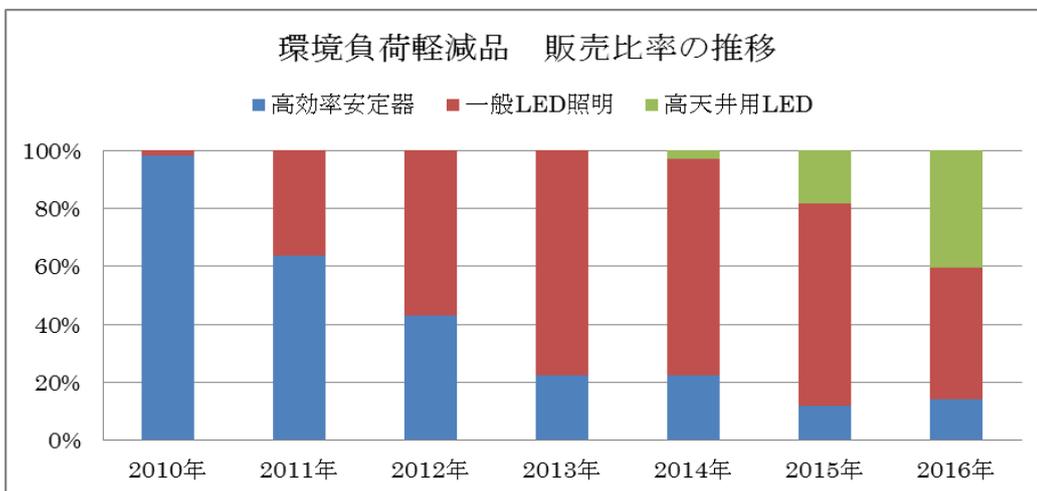
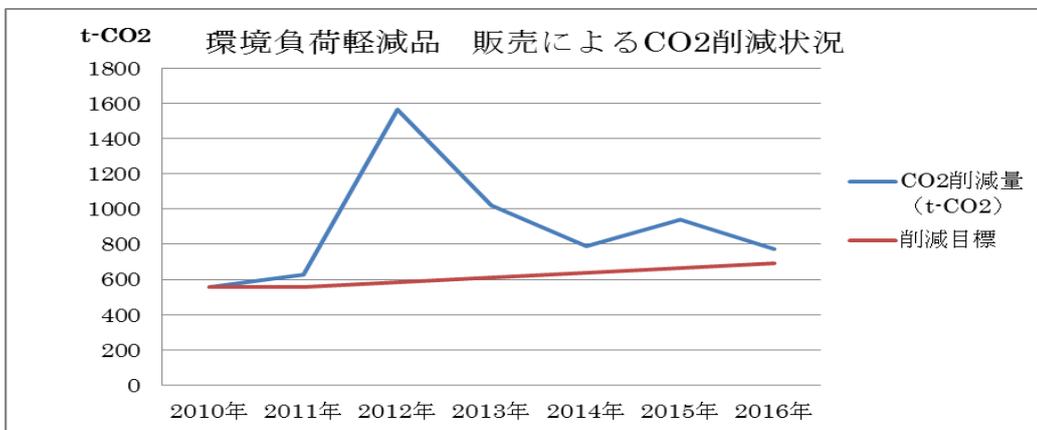
(台)

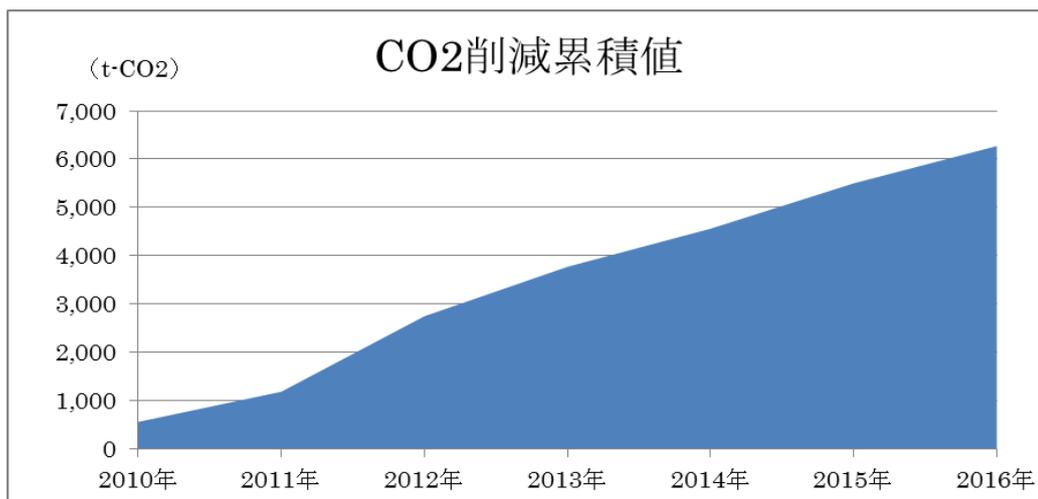
品目	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
高効率安定器	16418	11993	20348	6855	5347	3343	3300
LED照明	90	2059	8025	7190	5328	5922	3167
高天井用LED					42	312	566

電力削減量

(kwh)

品目	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
高効率安定器	1,477,620	1,079,370	1,831,320	616,950	481,230	300,870	297,000
一般LED照明	27,000	617,700	2,407,500	2,157,000	1,598,400	1,776,600	950,100
高天井用LED					63,000	468,000	849,000
合計	1,504,620	1,697,070	4,238,820	2,773,950	2,142,630	2,545,470	2,096,100
CO2削減量	555.2	626.2	1564.1	1023.6	790.6	939.3	773.5
削減目標	100%		105%	110%	115%	120%	125%
実績値		113%	282%	184%	142%	169%	139%





※環境負荷軽減品を以下の3種類に分け、それぞれの販売に伴う節電量からCO2排出削減量を計算し、目標数値達成を目指す。

品 目	電力削減値	根 拠
高効率電子安定器	30W	代表的な商品（40W2灯）を従来品から電子安定器に置き換えた場合 85W-55W=30W の削減とする
一般LED照明	100W	LED電球は平均50Wの削減、蛍光灯は40Wの削減、水銀灯（250W以下）は最大200W削減となるが、平均100Wの削減とする。
高天井LED	500W	400Wから1000Wまでの水銀灯をLEDに置き換える場合で、削減値は300W～750Wとなる。よって平均500Wの削減とする。

上記の削減値に各販売数を乗じ、点灯時間を年平均3000時間として計算する。
その数値にCO2排出係数（1kwh=0.000369t-CO2）で求める。